

2021年1月20日
株式会社毎日放送

社長記者会見をオンラインで開催しました

本日、当社は社長記者会見をオンラインで開催し、代表取締役社長の三村景一と代表取締役専務取締役の梅本史郎が出席しました。記者会見で当社が発表した事項は下記の通りです。

記

【2020年の振り返りと2021年の展望】

2020年は物理的にあらゆる物事のつながりが絶たれた1年でした。人に会いに行く、人と接するという当たり前のことが出来なくなり、当たり前のことがいかに重いものであったかを痛感させられました。この記者会見もオンラインで実施することになり、お伝えしたいことをうまく伝えることが出来るのか、もどかしい気持ちでいっぱいです。面と向かって、同じ空気を共有してコミュニケーションするのが一番だと思う一方で、これが人と人との新しいつながり方なのかという思いもあります。

年明けから色々な場面でお話ししたのですが、年末に無人で行われた「1万人の第九」で、私たちの仕事の原点をみたと感じました。38年前にスタートした時には、1万人が集まって合唱するなんて無謀だと言われました。1万人をどうつなげ、どう伝えていくかという試行錯誤の結果、毎年当たり前のように1万人が集まり、歌い継がれるようになりました。

ところが去年は1万人が集まらずにどうやって歌うか、どうやって伝えるかが突き付けられました。今の技術を駆使すればどんなことが出来るのか、もう一度どうつながるかという取り組みでした。番組でも放送されましたが、「動画を投稿してくださった1万人を超える参加者をひとり残らず大阪城ホールに連れて行って、ひとり残らずその歌声を無人のホールに響かせてみせる」と語った音声担当者の言葉を誇らしく思っています。

第九は一例にすぎません。様々な制約をどう乗り越えるのか、新しい伝え方はないのかと模索しながら放送を続けてきました。世の中の人々も不安で不自由な巣ごもり生活を強いられる中、そうして放送した番組が支持され、ご覧いただくことができるという手ごたえもありました。我々をとりまく環境は厳しいですが、それら模索する中でつかんだものが、難局を乗り越えて明日に向かって進んでいくための手がかりになるのではないかと感じています。それらを形にしていく1年でありたいと決意しています。

【ラジオ新会社の独立と開局70周年について】

昨年5月に設立した毎日放送ラジオ分割準備株式会社は、4月1日に株式会社MBSラジオに商号変更し、事業を開始します。当社は商号を変更せず株式会社毎日放送としてテレビはじめとするその他の事業を継続します。

この4月1日は、MBSにとって開局70周年を迎える新しい年度の始まりでもあります。今回の会社分割はラジオとテレビが独立して迅速な経営判断と機動的な業務執行を行うことが目的ですから、ラジオ・テレビそれぞれが変革に取り組む年にしたいと考えています。

MBSラジオは開局70周年を迎える今秋を目途にタイムテーブルを見直すべく準備を進めてまいります。テレビ事業を担う毎日放送は4月1日付で組織改編を行うとともに、別項で述べるとおり、今春の改編で平日の午後帯を中心に大胆に見直したいと考えています。

【平日午後帯の改編について】

3月29日(月)から、新番組「よんチャンTV」(仮)をスタートさせます。河田直也アナウンサーがパーソナリティ、大吉洋平アナウンサーがニュースキャスターを務める番組です。

玉石混交ではない正確な情報を、よりスピーディーに視聴者にお届けすることこそがテレビの存在価値であるのとらえ、先行き不安な世の中で「あした」への希望を感じてもらえるような番組にしていきたいと考えています。報道局の取材力をもとにした一次情報と、制作局の伝達力・演出力を結集させて番組制作と情報発信に全力を注ぎます。

「ちちんぷいぷい」と「ミント!」は終了し、午後1時55分からはCBCテレビ制作の生放送情報番組「ゴゴスマ」を編成します(ゴゴスマの放送は3月15日から)。TBSテレビ発ネット生放送情報番組「ひるおび」からの生放送の流れをしっかりと受けとめ、系列局の力を結集したタイムテーブルを実現いたします。

22年間ご愛顧いただいた「ちちんぷいぷい」は3月に「フィナーレスペシャル」企画をお送りする予定です。新番組や組織改編の詳細については、後日あらためてお伝えしたいと思います。

【新型コロナウイルス感染症への対応状況】

大変な制約を受けての番組制作が長期化していますが、正確な情報と良質なエンターテインメントをお届けすることが放送局の使命と考え、作成したガイドラインに沿って安全に十分な注意をはらって番組制作にあたっています。当社でも複数の感染者が出ましたが、二次感染やクラスター発生という事態に至っていないのは安全対策に効果があったものと受け止めています。

当初はリモート出演のための機材設置、アクリル板の設置をはじめとするセットの見直し、出演者・スタッフ数の絞り込み、班分け、ゾーニング、またそれらを支えるシステムの構築といった「どうすれば放送を継続できるか」という対応に追われましたが、そういう取り組みがノウハウとして蓄積されてきています。人と人とのつながりが分断された時代の、新しいつなげ方、つながり方を模索しているところです。

【経営状況】

毎日放送単体の業績は今期も営業赤字となる見通しです。テレビスポット収入の落ち込みが大きいことが主な要因ですが、景気が回復し市況も持ち直すことに依存するのではなく、今までの組織、働き方、お金の使い方などあらゆる面を見直して、今後の激変に備える改革に取り組んでまいります。

放送関連ではない収入の柱を立てることも急務で、新規事業開発を担うグループ会社のMBSイノベーションドライブは活発に動いています。昨夏設立した地域創生コンテンツ開発の(株)Z i p a n gをはじめ、傘下の4社はまだ大半が赤字ですが、ほぼ当初計画していた通りに推移していて今後期待しています。

今年はMBSラジオや大阪駅前の新劇場を運営する会社もスタートする予定で、孫会社も含めたグループ会社は15社になります。すべての会社が順調に発展していくとは限りませんが、挑戦し続けていきたいと考えています。

【70周年ロゴについて】本年4月1日より、以下のロゴを使用し、開局70周年を盛り上げてまいります。

